

プレス発表資料



平成 26 年 9 月 11 日
秋 田 大 学

秋田大学、ヤンゴン大学（ミャンマー連邦共和国）と学術交流協定を締結へ

秋田大学（澤田賢一学長）は 9 月 19 日（金）、ヤンゴン大学（University of Yangon）と学術交流協定を締結します。

現地で行われる調印式には、本学から澤田学長らが出席します。ヤンゴン大学側は Aung Thu 学長が参加するほか、日本、ミャンマー両国の政府関係者らも式典に参加する予定です。日本とミャンマーは外交樹立 60 周年にあたり、様々な行事が両国で催されています。秋田大学とヤンゴン大学の協定締結は両国の 60 周年記念行事の一つに位置づけられ、学術交流の活発化が期待されています。

ミャンマーはアジア最後の「桃源郷」とも言われ、民政移管後は世界中の大学、企業などがアプローチしているのが現状です。金・銀・銅などの鉱物資源にも恵まれており、資源関連分野での人材育成が喫緊の課題となっています。

今後の交流は、秋田大学国際資源学部とヤンゴン大学地質学科が中心になり、「資源」を軸にした共同研究、研究者交流、学生交流を進めます。

ミャンマーのトップ校であるヤンゴン大学には世界中の大学が提携を申し入れています。ヤンゴン大学側はテーマ別にパートナー大学を「選択」している状況です。日本国内の大学では、名古屋大学や東京外国語大学が協定を締結し、共同研究・支援を展開しています。



日・ミャンマー外交関係樹立 60 周年のロゴマーク

※現地で行われる締結式の写真素材を希望される場合は、本学から御提供することも可能ですので、御相談ください。

【お問い合わせ先】

秋田大学 副理事（国際担当） 高橋 康弘
TEL : 018-889-3035 FAX : 018-889-3012

ヤンゴン大学

- (1) 設置年度： 1878年 ラングーン・カレッジとして設立
1920年 ラングーン大学に改名
1983年 ヤンゴン大学に改名

(2) 設置形態：国立

(3) 学部等の構成

理学系

Dept. of Mathematics (数学), Dept. of Physics (物理学),
Dept. of Chemistry (化学), Dept. of Industrial Chemistry (工業化学),
Dept. of Zoology (動物学), Dept. of Botany (植物学),
Dept. of Geology (地質学)

法学系

Dept. of Law (法学)

人文学系

Dept. of Philosophy (哲学), Dept. of Psychology (心理学),
Dept. of English (英語), Dept. of Burmese (ビルマ語),
Dept. of History (歴史学), Dept. of International Relations (国際関係学),
Dept. of Library and Information Studies (図書・情報学),
Dept. of Oriental Studies (東洋学),
Dept. of Computer Studies (コンピュータ),
Dept. of Geography (地理学)

●ヤンゴン大学(旧ラングーン大学)は、東南アジアでは、最も古い歴史を有する名門大学であり、1878年、カルカッタ大学の姉妹大学として大英帝国政府によって設立された。1958年に第二の都市であるマンダレーに大学が出来るまでの間、同国で唯一の高等教育機関であったヤンゴン大学は、大英帝国からの独立を求める学生運動の中核的組織となり、ビルマの独立運動を主導したアウン・サン将軍やアジア人として初めて国連事務総長を務めたウ・タント氏など数多くの指導者を育ててきた。

●1945年の独立後において、一転して民主化運動の拠点となったヤンゴン大学の分割を企図した1962年の大学教育法の改正により、医学部、経済学、工学部等がヤンゴン大学から切り離され、それぞれに独立した大学として設立されるに至る。この結果、ヤンゴン大学には、理学部、法学部、人文学部の3学部のみが残こされた。

●しかしながら、その後も、ヤンゴン大学学生による民主化運動が続いたことから、1996年、ミャンマー政府は、ヤンゴン大学を大学院大学とすることを決定し、学部生は、ヤンゴン市内に新たに設立された3つの大学に分散されることになった。この前後からミャンマー軍事政権のアウン・サン・スー・チー女史の自宅監禁を始めとした反民主的政策に対する欧米諸国の経済制裁などにより、国際的に孤立した状況に陥ることとなった。

●2011年のアウン・サン・スー・チー女史の自宅監禁の解除後、軍事政権は、民主化の動きを加速させ、その一環として、2013年6月、18年ぶりに200名の学部学生をヤンゴン大学に入学させることを決定し、現在、入試判定が行われている処である。

●ミャンマーは、アジアで最後に残された桃源郷とも言われ、高い民度(識字率が80%以上)、廉価で質の高い労働力、6000万人を抱える市場として数多くの魅力を備えており、わが国政府も、本年5月の安倍首相の訪問に見られるように、官民を挙げてミャンマーの経済支援、人材育成に取り組む姿勢を明確に打ち出している。

●ミャンマーは、金・銀・銅を始めとした鉱物資源にも恵まれて、わが国の資源安定確保の上でも重要な役割を果たすことが期待されている。

秋田大学は2013年3月、ミャンマーに調査チームを送り、ヤンゴン大学地質学科の教授らと意見交換を実施。その後、ミャンマー政府教育大臣らとの直接協議を経て、協定締結に至った。なお、2009年3月、ヤンゴン大学卒業生の Myint Soe 氏が秋田大学工学資源学部でリモートセンシング分野の博士号を取得。同氏は、現在、ミャンマー鉱業省地質調査・鉱物部の次長を務めている。